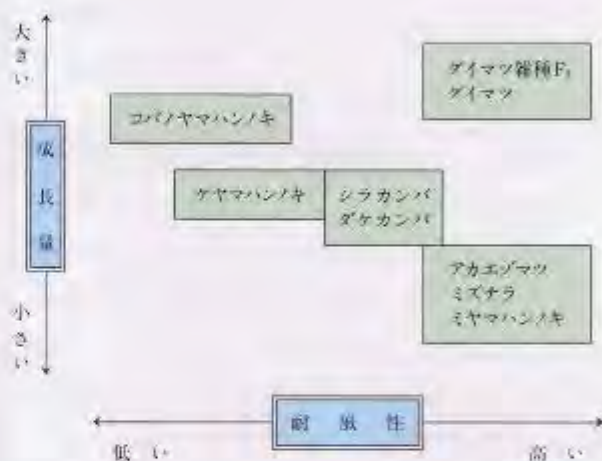


強風に耐えて生育できる樹種

北海道の最北端に位置する天北地方は、寒冷な気候に加えて風の非常に強いことが知られています。このような場所に森林をつくるには、苗木が風の強い環境に耐えて生育できる樹種でなければなりません。そこで、天北地方でも最も風が強い地域の一つであるサラキトマナイ丘陵（稚内市）に、耐風性が期待できる広葉樹6種と針葉樹3種を試験植栽してみました。耐風性は、植栽木を風上側と風下側に2分して、樹高の平均値を比較し、その差が大きい樹種ほど耐風性が低いと判定することにしました。

植栽後13年目の調査から、1)生き残った木の数に樹種による違いはない、2)グイマツ雑種Fとグイマツは成長がよく耐風性も高い、3)ハンノキ類は成長はよいが耐風性は低い、4)アカエゾマツやミズナラ、ミヤマハンノキは成長は遅いが耐風性は高いことが分かりました。このことから、強風環境を早期に改善するための森林をつくる場合には成長の早いグイマツ雑種Fやグイマツ、木材資源としての利用が目的の場合には成長は遅いが材としての価値の高いアカエゾマツやミズナラを植栽するのがよいでしょう。



サラキトマナイの植栽試験地における耐風性と成長量の関係の模式図



天北地方の造林地



グイマツ雑種F、やグイマツでも風上の個体は樹冠の偏奇や先枯れ状態を示す。